

保健体育科

廣瀬 尋理

金子 真鈴

共同研究者 横山 剛士（金沢大学）

1. 伝統文化教育を進めるにあたって

本研究を進めるにあたって、念頭に置きたいことは伝統文化教育を通して、保健体育科の教科の目標を達成することである。言い換えれば伝統文化を教えることが目的ではなく、伝統文化を教え、生徒が伝統文化に触れることで、どのように教科の目標に迫れたかを大切にしていきたいと考えている。またそれだけではなく研究の副題にもある、グローバル社会に生きるために必要な資質・能力を目指し、研究をすすめていきたい。

さて、現行の学習指導要領の保健体育科の目標は、「心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。」とある。この目標に向けて体育分野及び保健分野でこれらを相互に関連して指導することが重要である。特に体育科では「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる」こと、つまり生涯スポーツにつなげていくという大きな目標がある。そこに至るまでにそれぞれの運動の特性や魅力に応じて、その楽しさや喜びを味わうとともにその中で、主体的に取り組む、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たすなどの態度を育てる必要があり、そのような態度はグローバル人材の育成に関わる要素Ⅱにある「主体性、協調性、柔軟性、責任感、使命感」が関連していると考えられる。

また、グローバル人材の育成に関わる要素Ⅰにある「コミュニケーション能力」も、運動の楽しさや喜びをより大きなものにしたり、できなかったことができるようになったりする過程にも大きな影響を及ぼすため、大きく関わっていると考えられる。またコミュニケーション能力は教科の目標にある「運動を合理的に実践」するために、課題解決の活動やグループで作戦を立てたりする際に必要となる力である。また、そのような活動の中で養った力は本校の教育目標にある「広い視野と豊かな人間性を持ち、将来、社会的使命を果たす生徒の育成」にもつながっていくと考えている。

2. 資質・能力の育成にあたって

(1) グローバル人材の育成について

グローバル人材の育成に関わる資質・能力として要素Ⅰ～Ⅲと関連させながら保健体育科との関連について述べていく。

要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力

要素Ⅰについては上述したように、コミュニケーション能力は、運動の楽しさや喜びをより大きくしたり、課題解決の活動や、グループで作戦を立てたりする際に必要な力となる。保健体育の授業において、ほとんどの単元で目標を達成するために必要な力と言える。

要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感

要素Ⅱについても上述したように、保健体育科の目標にある生涯スポーツにつなげていく際

に育てていかなければならない力と要素Ⅱの力が大きく関連している。仲間や組んだ相手と練習や試合を積極的そして協力して取り組まなければならないし、チームを組めばそのチームの中での自分の役割や、試合を運営する様々な役割に対して責任感や使命感をもって取り組むことが求められる。以上のことから要素Ⅱについても、ほとんどの単元で目標を達成するために必要な力と言える。

要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ

要素Ⅲについての関わりについて、まず考えられるのは、武道である。武道については武技、武術などから発生した我が国固有の文化であり、それを学ぶことは異文化に対する理解も深まる。また単に試合の勝敗を目指すだけでなく、相手を尊重したり、自分を律する克己の心を表したりするものである礼法についても、自ら日本の伝統的な行動の仕方を実践することで日本人としてのアイデンティティを確認することになると言える。

またダンスでは日本の民謡や他国の独特の踊りを学ぶことで、要素Ⅲの力と関わることができると考える。

(2) 関連・連携の考えられる教科等について

体育の授業で技能を習得する場面において、どのように体を動かしたら効率のよい動きになるか考えていく事が多い。その際、理科の「運動とエネルギー」にある「力の方向性」と関連が大きくなる。特に陸上競技、器械運動、球技においてもクロズスキルを教える際には、つながりが強くなる。

また武道においては、柔道着の着方や帯の閉め方については家庭科と関連が強い。また武道や華道、茶道のように日本の伝統的な型や作法を学ぶという点ではそれを取り扱う教科と連携が図れると考えられる。

3. 成果と課題

男子は2, 3年生で武道「柔道」の授業を行った。まず、授業前の柔道のイメージについてアンケートでは「痛い」「怪我をしそう」「寒い」などの授業に対してネガティブなイメージが多かった。しかし、授業後のアンケートでは「相手を思いやることの大切さ」「作法の大切さ」「日本人としての大切な文化」などを知ったという回答が目立った。特に多かったのが「自他共栄の精神の大切さ」に関する記述が多く、柔道の授業を通じて仲間を大切に思う気持ちや、協力して高め合う資質や能力が養われたことが伺える。

しかしながらコミュニケーション能力に関する質問「自分の気持ちや考えを分かりやすく人に伝えることができる」については「あまりできない」「できない」と答えた人が36%と多かった。これについては柔道において一斉指導が多く、互いに教え合う場が少なかったことが原因であると考えられる。授業形態に工夫をし、礼法や技能だけでなく体育科として育てたい資質や能力をより意識して授業を展開していく必要があると感じた。

女子は1年生で武道「柔道」の授業を行った。男子同様、授業前の柔道のイメージについては、「カッコいい」や「強そう」というイメージよりも、「痛そう」「こわい」「難しそう」などのネガティブなイメージを抱く生徒が圧倒的に多くみられた。しかし、授業後のアンケートでは「相手を思いやること」や「礼儀」、「相手と高め合うこと」を学んだと回答する生徒が多く、自他共栄への記述が

多く見られた。このことより、柔道の精神である精力善用や自他共栄が生徒たちに意識づけられたように考える。

また、コミュニケーション能力を問うアンケート項目において、「相手に対して、どのようにしたら合理的（効果的・理想的）な動きになるか、わかりやすく伝えることができますか？」という問いに「あまりできない・できない」と感じている生徒が授業前は32%を占めていた。そこで、ペアやグループでの活動を多く取り入れ、生徒同士で教え合う場を設けた。同じ質問を授業後にもアンケートで行ったところ、「あまりできない」と感じる生徒は5%にまで減少し、「できない」と感じる生徒はいなかった。これは、ペアやグループで互いに見合ったり、アドバイスを送り合ったりする中で、より個人に即した具体的なアドバイスをもらえたことや、間近で実際に実践して見せてもらったりしたことで、互いの責任感も高まったのではないかとアンケートの記述から伺える。今後は柔道で学んだ礼儀や、相手を思い互いに高め合うことを他の種目でも生かし、グローバル人材の育成へとつなげていきたい。

武道は保健体育科の必修科目であるため、それを学ぶことは保健体育の目標と合致していくのは当然であるが、今回伝統文化としての武道という捉えを改めてすることで、より教科の目標に迫れたことがアンケートから伺えた。しかし、生活様式をはじめとする環境の変化により、身につけた作法・所作を生活で活用する場が減ってきているため、今回学んだことを知識としてのものではなく、これからの生活で生かせる考え方や精神として生徒に残るよう指導していきたい。

生徒アンケート

柔道は、目で見て覚悟して学ぶ。その一つでそこには「自他共栄」というものがあり、これには、日本心独特な思いがある。これこそが、良いものなので、自分が柔道を通じて学ぶことができる。日々の生活で、「礼儀」を大切に、相手に対する思いを深めていく。技の力だけでなく、人間としての力を鍛えられる。柔道を通じて、学んだことから、このように考え方を大切にして、日本人らしい心の持ちようを大切にしていきたい。

僕は、柔道の授業を通して、スポーツの中でも柔道は、
相手と思いやる競技だと実感しました。

今まで、テニスをやっていた。とにかく、技術と

月勢ちにこだわっていたので、今回「相手」を思い
やっ、練習や、試合をする柔道をしてみて、
少し見方が変わりました。

この相手と思いやることを、自分のテニスでも
宋せん活用したいと思います。

スポーツをしていたりすると勝ち負けがある。負けた
ときはくやしくて、あいさつをしなかつたりしてしまうことが
ある。けれど、柔道は礼に始まり礼に終わるという
基本があって、相手と思いやることができたので、
日々の生活でも、あいさつや、感謝の気持ちを
大切にしていきたい。

「自他共栄」という、仲間と協力して、共に成長
していこうという気持ちで生活をしていきたい。

柔道では、相手へのあいさつなど、本当に大切なこと、大事にしなければならぬことがつまっていました。日本人は、礼儀を大切にしている、人徳があると世界中の人々に言われています。だから、かんこう客が多く集まる金沢人としても、礼儀を大切にしていきたいです。

相手を考えて、最初と最後において、さつむね礼儀や衣服をきちんと着ることが、日本人として必要だと思ったので、生かしていきたいです。

礼儀を学んで、相手と一緒に頑張ることを学んだので、協働することを生かしていきたいです。

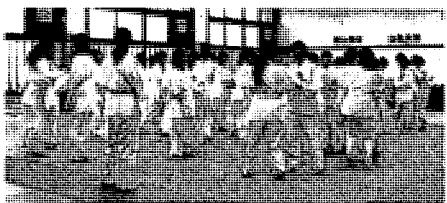

実践事例

保健体育科 1 年

授業者 金子 真鈴	授業日 10月 27日 (金) 1・3 限	
授業クラス, 教科等名	1 年 1・2 組 女子 3・4 組 女子	関係・連携の考えられる教科等 家庭 (衣生活)
扱う伝統文化 ・生活文化 ・地域文化	授業内容 ・柔道で大切にされている伝統的な考え方を学ぶ ・柔道衣を着る	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化 ・現代の日本文化
<p>特に関わる要素Ⅰ～Ⅲ</p> <p>要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力</p> <p>要素Ⅱ：主体性・積極性，チャレンジ精神 協調性・柔軟性，責任感・使命感</p> <p>要素Ⅲ：異文化に対する理解と 日本人としてのアイデンティティ</p>	<p>教科等で身に付けたい力 (本時について)</p> <p>武道「柔道」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国固有の文化である武道の考え方 (精力善用・自他共栄) を理解する。 ・道衣の着方 (襟，帯の結び方) に注意する。 	
<p>授業のポイント・流れ (見て欲しい部分，要素Ⅰ～Ⅲに関わるポイントなど)</p> <p>< 授業の流れ ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (柔道の歴史，考え方) 柔道の父 加納治五郎 『精力善用』…力を使って相手をねじ伏せたり，威圧したりすることに使わず，世の中の役に立つことのために能力を使いなさい 『自他共栄』…互いに信頼し，助け合うことができれば自分も世の中も共に栄えることができる 2. 道衣の着方を知る 襟はどちらが前にくる？ (浴衣を思い出そう) 帯の結び方 ※わからない人は教えてもらう 3. 自分で着る 着方を理解し，自分で着られるようにする 		

実践事例

保健体育科 1 年

授業者 金子 真鈴	授業日 11月 23日 (木) 1 限	
授業クラス, 教科等名	1 年 1・2 組 女子	関係・連携の考えられる教科等 理科 (力による現象)
扱う伝統文化 <ul style="list-style-type: none"> 生活文化 地域文化 	授業内容 <ul style="list-style-type: none"> 相手を操るにはどちらの手 (つり手, 引き手) を使うとよいか。 膝車で相手を倒す。 	
特に関わる要素Ⅰ～Ⅲ 要素Ⅰ：語学力・ コミュニケーション能力 要素Ⅱ：主体性・積極性, チャレンジ精神 協調性・柔軟性, 責任感・使命感 要素Ⅲ：異文化に対する理解と 日本人としてのアイデンティティー	教科等で身に付けたい力 (本時について) 武道「柔道」 <ul style="list-style-type: none"> つり手, 引き手に着目して, 相手を操るにはどちらの手を意識して動かせばよいのかを考える。 膝車の行い方を理解し, グループ活動を通して手 (つり手, 引き手) の使い方を考える。 	
授業のポイント・流れ (見て欲しい部分, 要素Ⅰ～Ⅲに関わるポイントなど)		
<授業の流れ>		
1 信頼ダンス ペア活動。片方が目を閉じ, その相手をまわりとぶつからないよう誘導する 1 回目はぶつからないことを意識。 2 回目は, 1 回目よりも速い移動。 3 回目はつり手のみ。4 回目は引き手のみで行う。		
2. 膝車 ペア活動。膝車の説明を聞き, 約束練習をする。 グループ活動。2 組のペアを合体させ, 4 人組をつくる。互いの膝車を見て, 技をかけている様子を観察し, 重要となる手を意識しながら相手にわかりやすくアドバイスを する。	(アドバイス例) <ul style="list-style-type: none"> つり手で相手を持ち上げるように。 つり手をもっと強く引いて! 引き手をぐっと引く。まわす。 キュッと引き手を引くと, (受けは) バランスがとりづらい。 	

実践事例

保健体育科2年

授業者 廣瀬 尋理	授業日 12月18日(月) 3限～6限
授業クラス, 教科等名	関係・連携の考えられる教科等 2年1～4組 男子 「私たちの生活と文化」 (公民)
扱う伝統文化 ・生活文化 ・地域文化	授業内容 ・試合を通じて互いの礼法を確認しよう。 ・作戦を立てて固め技の試合をしよう ・ 伝統文化 ・現代の日本文化
特に関わる要素Ⅰ～Ⅲ 要素Ⅰ : 語学力・コミュニケーション能力 要素Ⅱ: 主体性・積極性, チャレンジ精神 協調性・柔軟性, 責任感・使命感 要素Ⅲ 異文化に対する理解と 日本人としてのアイデンティティー	教科等で身に付けたい力 (本時について) 武道「柔道」 ・自分の気持ちや考えをわかりやすく人に伝えることができる。 ・主に試合前後の礼法について理解する。 ・勝敗だけでなく相手を尊重したり, 自分を律する克己の心を表したりすることの大切さを理解する。
<p>授業のポイント・流れ (見て欲しい部分, 要素Ⅰ～Ⅲに関わるポイントなど)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 試合をする上での審判法を理解する。 審判の動作だけでなく, 互いに礼を行う場面では, 審判がどのように振舞うかが大切であるということを理解させる。 2. 試合前後の礼法を確認する。 試合相手は自分を高めてくれるパートナーであるため相手を尊重することを理解させ, それを服装や態度 (礼法) で示すことの大切さを理解させる。(要素Ⅲ) 3. ペア同士で作戦を考える ペアで対戦相手の作戦を確認し, 練習を行う。 自分がどのような作戦を考えたか相手に伝え, それを基に練習をする (要素Ⅰ) 4. 試合を行う 勝敗だけでなく, 礼法をしっかりと行われているか, 班ごとに確認をさせる 5. ペアでアドバイスを送る。 相手に分かるように自分の考えを伝えているか確認する (要素Ⅰ) 6. 試合を行う 7. まとめ 	

